



言葉で伝えられないものの表現



2年後に退職。一人でできる作業で自分を表現しようとして小説や切り絵に取り組み始めた。たどりついたのは、

サッカー部門賞「楽しいサッカー」山下恵理さん(34) (筆名・如月虹)

「Jリーグの投票で1位になり、サッカー解説者のセルジオ越後氏には「ピカソのよう」と絶賛された。『楽しいサッカー』でサッカー部門賞を受賞した山下恵理(筆名・如月虹)さん(34)は「高校の授業でやったサッカーの楽しさを描きました」と話す。

大阪府出身。10歳で和歌山市に移った。興味があることは何でもやってしまう。中学、高校と息苦しさを感じた。2年後に退職。一人でできる作業で自分を表現しようとして小説や切り絵に取り組み始めた。たどりついたのは、

ほとばしる思い 絵に込めて



ただで吐き気を催す症状に襲われ、後にパニック障害と診断された。大学に進んでも他人との付き合いはうまくいかず、鬱屈した思いをこい言葉にして親に浴びせたこともあった。

「首の皮一枚でつながった」という心の支えになったのが、絵を描くことだった。

大学1年の春先、「自分の思いを親にぶつけても、親がつらくて耐えられない」と思った。手元にあったシャープペンシルを手に取り、リポート用紙の裏に思ったままに絵を描いた。

苦しさ、怒りを吐き出す気持ちになった。すると、胸が軽くなった。次に色鉛筆で描いてみると、意外なほど明るい色使いの作品ができあがった。「気持ちのほけ口が見つかった」。救われた気がした。

苦しい時間を経て、たどり着いたのが今回の「不屈」という作品だ。今年から、アトリエで絵画教室を始める。「自分と同じようにももんとした思いを吐き出せず、悩んでいる人はいないと思う。自分は絵で助かった。そういう経験を、教室で同じように悩んでいる人に伝えられたらうれしいです」(菅裕彦)



グランプリ「不屈」

山内崇敬さん(34)

ただで吐き気を催す症状に襲われ、後にパニック障害と診断された。大学に進んでも他人との付き合いはうまくいかず、鬱屈した思いをこい言葉にして親に浴びせたこともあった。

「首の皮一枚でつながった」という心の支えになったのが、絵を描くことだった。

大学1年の春先、「自分の思いを親にぶつけても、親がつらくて耐えられない」と思った。手元にあったシャープペンシルを手に取り、リポート用紙の裏に思ったままに絵を描いた。

苦しさ、怒りを吐き出す気持ちになった。すると、胸が軽くなった。次に色鉛筆で描いてみると、意外なほど明るい色使いの作品ができあがった。「気持ちのほけ口が見つかった」。救われた気がした。

苦しい時間を経て、たどり着いたのが今回の「不屈」という作品だ。今年から、アトリエで絵画教室を始める。「自分と同じようにももんとした思いを吐き出せず、悩んでいる人はいないと思う。自分は絵で助かった。そういう経験を、教室で同じように悩んでいる人に伝えられたらうれしいです」(菅裕彦)

倒れても立ち上がる姿 自分を重ね

スポーツ題材 選手も審査

5月から作品募集

2016年に日本プロサッカー選手会の協力で障害者を対象にサッカーの絵画を募集する「SOMPOパラリンアート・サッカーアートコンテスト」がスタート。翌年に「パラリンアートカップ」と改称してバスケットボールがテーマに加わり、18年からはすべての競技を題材にした作品で応募可能になった。19年は全国から703点が集まった。

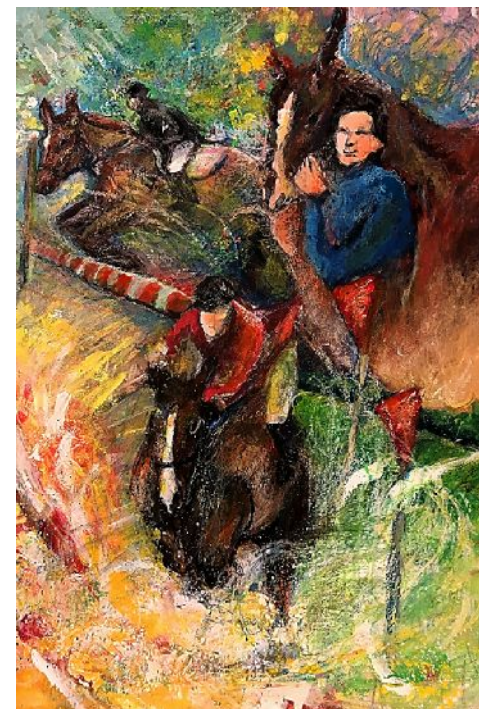
特徴はサッカー、バスケットボール、ラグビーの現役選手が試合や練習の合間に投票で審査をすること。20年はプロ野球選手会も加わる。審査員はほかに「キャプテン翼」



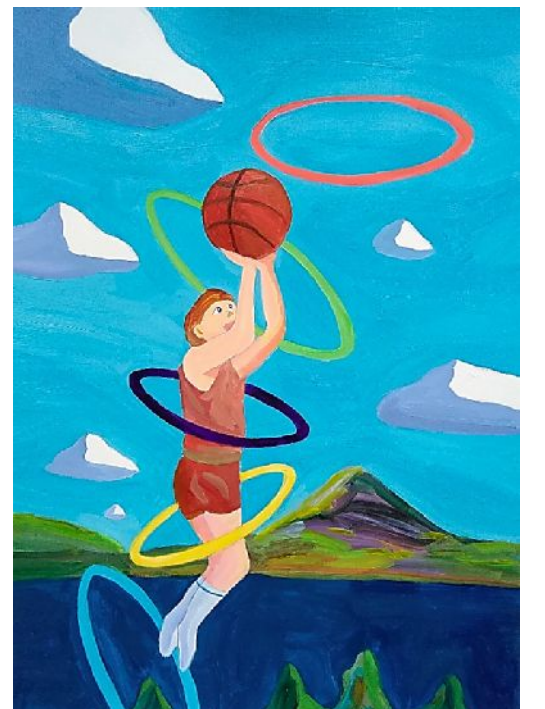
作品を選ぶラグビートップリーグ・ホントの選手たち

で知られる漫画家の高橋陽一さんら。グランプリ以下各審査員の個人賞、損保ジャパン日本興亜賞(都道府県賞)などが選ばれる。

5回目の開催となる20年は5月1日に募集開始予定で、詳細は4月下旬に発表される。問い合わせは運営事務局(03・5565・7279)まで。



準グランプリ ころうさぎさん「共に駆ける」



バスケットボール部門賞 大石慶彦さん「五輪ショット」



準グランプリ 木村聡伸さん「Tackle」



保険の先へ、挑む。

損保ジャパン日本興亜

SOMPO美術館 OPEN 2020.5.28[木]

損保ジャパン日本興亜は文化・芸術を通じて社会に貢献します。